

環境ボランティアミーティング拡大版「グンマノミライ 2030」報告書

【概要】

日時：平成 30 年 2 月 1 日（木）14:00～16:35

場所：前橋市総合福祉会館 文化教養室（前橋市日吉町二丁目 17-10）

主催：群馬県地球温暖化防止活動推進センター

関東地方 ESD 活動支援センター

後援：群馬県

参加者数：70名 + スタッフ11名 + 取材2社（群馬テレビ、群馬経済新聞社）

アンケート回答者数：55（内容全体について87%が満足と回答）

目的：全体としては、ESD や SDGs の普及と地域ネットワークの形成による分野横断的な取組の推進を目的とし、群馬の未来の姿や SDGs を知ることで個や団体の活動が活発になることをねらいとした。群馬県センターとしては、関東 EPO や ESD センターを身近に知ってもらうこと、いざという時の仲間意識の刷り込み（自立につながり、他団体と共同でできる活動の発見ができる・・・など）を目的とした。

スケジュール

13:00～会場設営（9つのWSスタイルに）

14:00 開会挨拶 環境省 関東地方環境事務所 有田一仁氏

14:05 ESD/SDGs についての解説 関東地方 ESD 活動支援センター 伊藤博隆氏

14:25 最近の取組紹介 1 群馬県環境サポートセンター/群馬県環境政策課

松原寛人氏

14:35 最近の取組紹介 2 前橋市市民活動支援センター センター長：星野修志氏

14:40 事例紹介 1：鮭に学ぶ ESD チャウス自然体験学校 代表 加藤正幸氏

14:50 事例紹介 2：地域と海外をつなぐ NPO 法人自然塾寺子屋（ビデオ上映）

15:00 最近の取組紹介 3 JICA 東京 市民参加協力第一課 高橋依子氏

15:10 ワークショップ 進行：関東地方 ESD 活動支援センター 伊藤博隆氏

・地域の良いところ、課題を探る

・2030年に向けて何が出来るのか？

16:15 ワークショップまとめ

16:30 閉会挨拶 群馬県地球温暖化防止活動推進センター 中島啓治センター長

17:00 撤収完了

【プログラム詳細】

環境省関東地方事務所の有田一仁氏より開会挨拶。「環境基本計画改訂の中でも SDGs を組み込んでいく予定。環境教育現場の実践に国際的取り組みの SDGs を切り口として使ってもらえれば」



関東地方 ESD 活動支援センターの伊藤博隆氏より、ESD/SDGs についての解説。「2005 年から ESD の 10 年であったが、なかなか浸透せず。引き続き継続することになった」と経過説明のあと、持続可能な社会を作っていくために地域の課題を解決する、その手法として ESD を使うことについての解説。詰め込み式の学習ではなく主体的に関わるアクティブラーニングが ESD であり、大きく変わる社会情勢に対し地域社会のあらゆる主体が連携し、持続可能な社会のための 17 の目標を設定したのが SDGs。ESD のゴールとして SDGs の課題解決をめざす。



「では群馬では何が取り組まれているのか」について、群馬県の取り組みを松原氏より紹介。環境にやさしい買い物スタイル普及促進協議会による店頭啓発、エコカレッジでの人材育成について説明があった。



市民活動の現場をよく知る前橋市市民活動支援センターより、325 団体の登録、70 団体が NPO、中央公民館の明寿大学卒業生が団体を立ち上げ登録をするという高齢者の活動が活発。高校生から高齢者まで交流が生まれ、若い世代による高齢者支援の活動も始まった。



実際の活動事例紹介として、チャウス自然体験学校の加藤さん。16年の活動でずっと ESD を続け、子供から大人まで 4 万人以上が全国から参加。そのブレない活動は、ESD モデルプログラムとして採択されたものもあり、現在は企業とも連携し「サケについて知る～育てる」プログラムを展開している。川のゴミ拾いだけではなく分別まですることで、なんのごみが多いか、どうしたらゴミを減らせるかも考える。団体はプログラムを作る、漁協は専門的知識の提供、企業は広報協力といった巻き込みもうまい。SDGs17のうち14の項目が自分たちの活動に関係していることがわかり、その中核になる活動は何か、関連する活動は何かを分析するなど ESD の理解・普及と人材育成を行っている団体である。

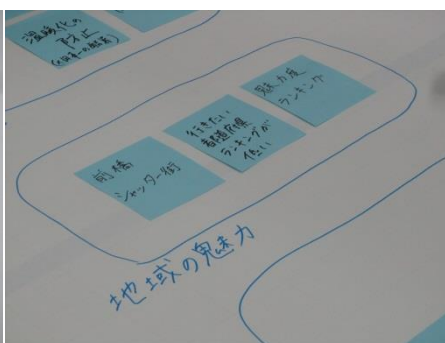
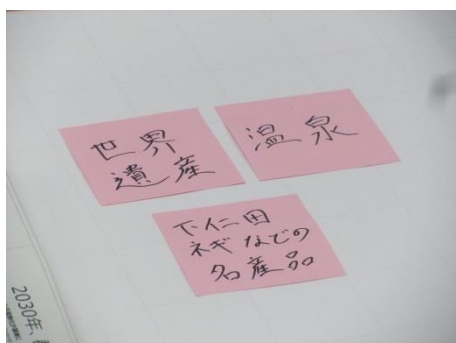


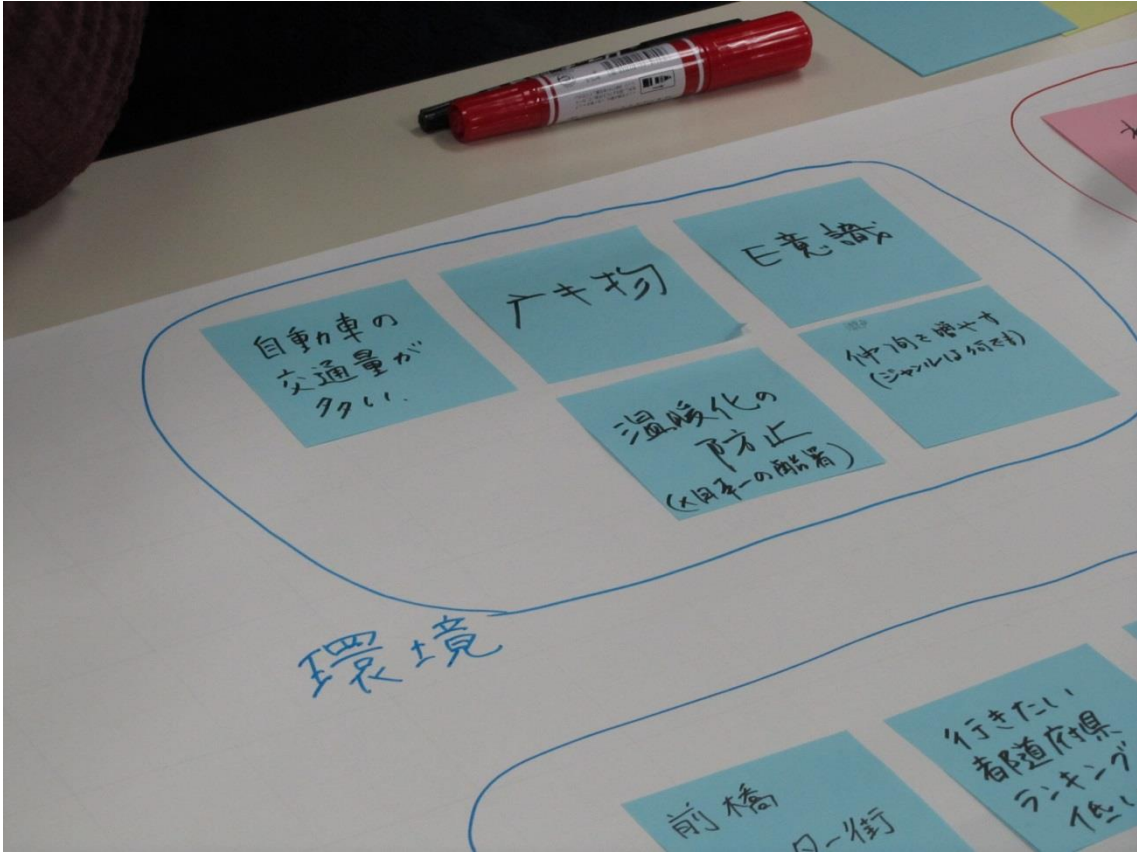
28 年度のふるさと作り大賞受賞の NPO 法人自然塾寺子屋は映像での紹介。国際協力という取り組みと、地域での受け入れ状況、活動の広がりなどの先進的事例を、参加者は食い入るように見ている。

国際的な市民参加として JICA 東京の高橋さんから、世界に貢献した群馬の地域の宝について紹介。水源を生かしたマラウィとみなかみ町の事例紹介。先ほどの自然塾寺子屋による農業研修生受け入れと甘楽町のこと。タイの有害医療廃棄物増加について医療廃棄物処理技術協力をする高崎のキンセイ産業さんのこと。尾瀬など、世界の課題解決にヒントを与える群馬の宝がたくさんある。



ワークショップは関東地方 ESD 活動支援センターの伊藤さんにより進められた。2030 年群馬はどうなる？をテーマに、進む温暖化、人口減少、外国人割合の増加といった視点からの将来予測。それを踏まえて、まず個人でワーク。次世代に渡したい群馬のたからものと 2030 年に向けて群馬の課題についてピンクとブルーの付箋に書いていく。9 つの各テーブルで、宝と課題をひとつずつ選び、どちらかに決め、2030 年にその宝をどう残すか、2030 年にその課題をどう解決するかを話し合うというやり方。







ワークショップの結果（解決のアイデア）

1. 宝「豊かな水源」水源ツアーを企画、上流下流の連携の仕組みを作って交流
2. 宝「人と自然」子供の頃からの体験を通じた教育と PR
3. 課題「マイカー依存からの脱却」スマートシティ化を達成するために、自転車やバスの利用で観光地の活性化も
4. 課題「地域の魅力」魅力度低いので、意識付け、ハード面、若者に魅力あるまちづくりをする。
5. 課題「公共交通」上信電鉄を安くする、バス路線を住民提案でもっと増やす
6. 宝「自然と人」シニアの活用、若い人の地域体験でつながりをつける、生きる力、地域力
7. 課題「高齢化社会の交通」月に一回公共交通デーを作る、意識改革からインフラへ。親が見本に
8. 宝「豊かな自然」次世代に任せましょう
9. 課題「群馬の人口減をどう突破するか」減ったままでがんばるなら、トップクラスの人材をつくる 人口を増やすなら他所からの移住を増やす どちらにしる働き方改革とインフラの整備必要

最後にアンケートを回収して終了した。結果については別添。